

【資料 3】

1 次アンケートについて

浦松 雅史

医師以外の職種の医療安全管理担当者への1次アンケート
—医療安全活動における専従（専任）医師の役割と意義に関する研究—

研究分担者 浦松雅史 東京医科大学医療の質・安全管理学分野 講師

研究要旨

本研究は、わが国における医師の安全管理活動への関与の実態及びあるべき医師の関与態様を把握するという全体構想の中で、全国規模で行う予定である2次アンケート調査に先駆けて、その内容、方法、対象等の妥当性、回答可能性を評価するために1次アンケート調査を行うことを目的としている。

本研究の基本的な方針は、1) 対象病院を、DPCI群及びII群とする、2) 回答者を、「医師以外の専従医療安全管理者」とする、3) 回収率を高めるためにweb上で回答する方法を採用する、4) 定量的に解析できる回答を主とするというものである。本方針の下、質問項目について、すでに洗い出されている平時及び有事の医療安全活動（ループ図参照）の、どの場面に、どのように医師が関わっているか、または、関わっていくべきかを明らかにすることができる質問項目を含むこととした。これらを踏まえて1次アンケート調査項目を作成した。その後、本アンケートを、DPCI群及びII群である180施設へ配布し、そらの施設の「医師以外の医療安全管理者」に回答を依頼した。

有効回答数は109件、回収率は60.5%であった。「医師以外の専従医療安全管理者」に回答を求めることは、医師の積極性、病院の安全管理体制に対する回答者の率直な評価を得ることができると考えられ、これを回答者とすることは妥当であると考えられた。また、明らかに不適當あるいは回答不可能な設問は無く、アンケート内容は妥当であることが明らかになった。また、予備的な解析で、一部、専従の医師安全管理者の設置の有無で有意に差が出る回答も見られた。

本研究の基本方針の下で、より大規模な2次アンケート調査を実施することが可能と判断された。

A. 研究目的

本研究の総合的な目的は、医療機関の規模等に応じた医療安全管理活動への医師の関与のあり方や、病理医との連携のあり方を検討し、医療安全管理体制向上のための具体的な取り組みを提言するというものである。本研究は、わが国における医師の安全管理活動への関与の実態及びあるべき医師の関与態様を把握するという全体構想の中で、全国規模で行う予定である 2 次アンケート調査に先駆けて、その内容、方法、対象等の妥当性、回答可能性を評価するために 1 次アンケート調査を行うことを目的としている。

B. 研究方法

本研究を踏まえて行う予定の 2 次アンケート調査の基本方針は、1) 対象病院を、DPCI 群及び II 群とする、2) 回答者を、「医師以外の専従医療安全管理者」とする、3) 回収率を高めるために web 上で回答する方法を採用する、4) 定量的に解析できる回答を主とする、5) まず、1 次アンケート調査を行い、調査の妥当性、実施可能性を評価することが決められた。調査内容については、すでに洗い出されている平時及び有事の医療安全活動（ループ図参照）の、どの場面に、どのように医師が関わっているか、または、関わっていくべきかを明らかにすることができる質問項目を含むこととした。

これらを踏まえて、1 次アンケート調査の質問項目を作成した（図 1）。1 次アンケート調査の実施期間は、平成 28 年 2 月 26 日から 3 月 31 日で、対象は、DPCI 群及び II 群病院 180 施設の、医師以外の専従医療安全管理者である。調査方法は、本研究の趣旨と協力の依頼をする文書に、web 回答システムへのアクセス方法を示した案内文を同封して、各病院の医療安全管理者宛てに郵送し、これを受け取った「医師以外の専従医療安全管理者」が、Web 上で回答する方法で行われた。

図 1 一次アンケート質問項目

Q1	・貴院の医療機関名をご記入ください。
Q2	・回答される方の職種をご記入ください。
Q3	・専従医療安全管理者として勤務して何年目ですか？
Q4	・貴院の病床数はおおよそどのくらいですか？
Q5	・あなたの病院では、年間のインシデント・アクシデント報告数は、おおよそどのくらいですか？
Q6	・あなたの病院では、年間の全インシデント・アクシデント報告数に占める医師による報告は、おおよそどのくらいですか？
Q7	・あなたの病院では、インシデント・アクシデントの事実経緯等について、医師に確認しにくいことがありますか？
Q8	・あなたの病院では、安全管理部門主催のM&Mカンファレンス（病因死因検討会）は、おおよそどの程度開催されていますか？
Q9	・あなたの病院では、院内ラウンドは、おおよそどの程度行われていますか？
Q10	・あなたの病院では、品質管理の手法（業務プロセスの標準化、改善活動の成果の測定、課題の特定と介入、現場へのフィードバック等）に基づいた改善活動は行われていますか？
Q11	・あなたの病院では、医療事故発生時、安全管理部門と各専門科が部門横断的に連携し、患者の原状回復のための治療連携をしていますか？
Q12	・あなたの病院では、医療事故が疑われる死亡についての病理解剖の際、病理医と安全管理部門は連携していますか？
Q13	・あなたの病院では、医療事故が疑われる死亡についてのAI撮影の際、放射線科医と安全管理部門は連携していますか？
Q14	・あなたの病院では、医療事故の死因究明や再発防止のための医療事故調査は実施されていますか？
Q15	・あなたの病院では、訴訟・係争は適正に対応されていますか？
Q16	・あなたは、医療事故防止のための改善活動への支援、介入をしていますか？
Q17	・あなたは、医療事故発生時に主治医らへ、緊急電話連絡や事実経緯の確認をしていますか？
Q18	・あなたは、医療事故発生時に病態の医学的評価、患者への影響や予後の判断をしていますか？
Q19	・あなたは、医療事故発生時に医療ミスによって発生したかどうかについての判断をしていますか？
Q20	・あなたは、医療事故発生時に患者、家族へ事実経緯を説明していますか？
Q21	・あなたは、医療事故発生時に診療録の医師の記載内容を確認していますか？
Q22	・あなたには、日常の医療安全活動や医療事故発生時の対応に困った際、すぐに相談できる医師がいますか？
Q23	・それはどのような立場の人ですか？（複数選択可）
Q24	・日常的な医療安全管理活動について医療安全管理担当の医師に相談したいこと、依頼したいことはどのようなことですか？（複数選択可）
Q25	・重大医療事故発生時に、医療安全管理担当の医師に相談したいこと、依頼したいことはどのようなことですか？（複数選択可）
Q26	・あなたは貴院の医療安全管理体制に満足していますか？
Q27	・あなたは貴院の医療安全担当副院長は医療安全管理に積極的だと思いますか？
Q28	・専従、専任など、医師の医療安全管理者が在籍している場合、その医師は医療安全に積極的だと思いますか？
Q29	・医師の医療安全管理者は必要だと思いますか？
Q30	・GRMの業務の中で、あなたの職種が関わることでより充実すると思われる業務を挙げてください。
Q31	・GRMの業務の中で、医師以外の職種で医療安全管理部門に加わってほしいと思う職種があれば挙げてください。
Q32	・本調査に参加しての感想やその他のお考えを自由にご記入ください。

C. 研究結果

a 基本的な結果

<回答数及び回収率>

有効回答数は109件で、回収率は、60.5%であった。

<回答者属性>

看護師が102名、薬剤師が6名、診療放射線技師が1名であった。

経験年数は1年目22名、2年目33名、3年目12名、4-6年目24名、7年目以上16名であった。

<病院規模>

病床数は、201-400床が6件、401-600床が23件、601-800床が43件、800-1000床が23件、1001床以上が14件であった。

<医療安全管理に専従の医師の有無>

専従又は専任の医師を配置している病院は73病院、配置していない病院は36病院であった。

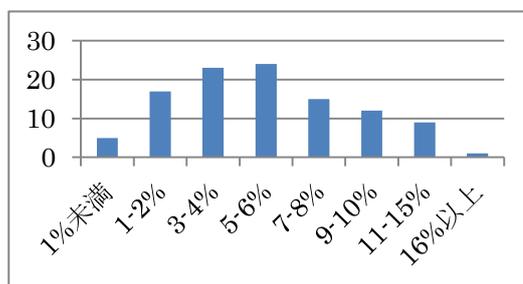
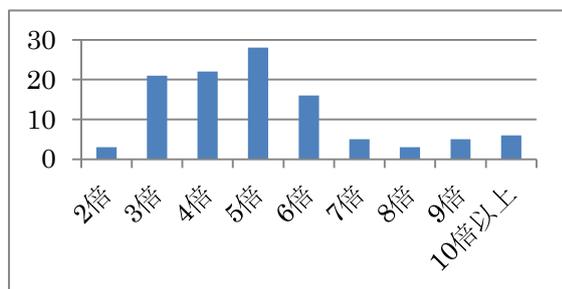
b 平時の医療安全活動に関する結果

<年間インシデント数>

- ・病床数の何倍のインシデントが報告されているか
- ・医師からの報告数の割合

病床数の3倍から5倍程度の施設が多かった。

全報告の内、3-4%あるいは5-6%という施設が多かった



<報告されたインシデントについて、医師へ確認が困難な頻度>

インシデントの確認の困難さについては、確認しにくいことがよくあると回答した施設は18件、ときどきあるが48件、まれにあるが21件、ほとんどないが20件、不明が2件であった。

c 有事の医療安全活動に関する結果>

<医療事故発生時に安全管理部門と専門科とは連携しているか>

医療事故発生時の、安全管理部門と専門科との連携は、ほとんどしていない9件、まれにしている15件、ときどきしている21件、良くしている63件、不明1件であった。

<医療事故の死因究明や再発防止のための医療事故調査は実施されていますか?>

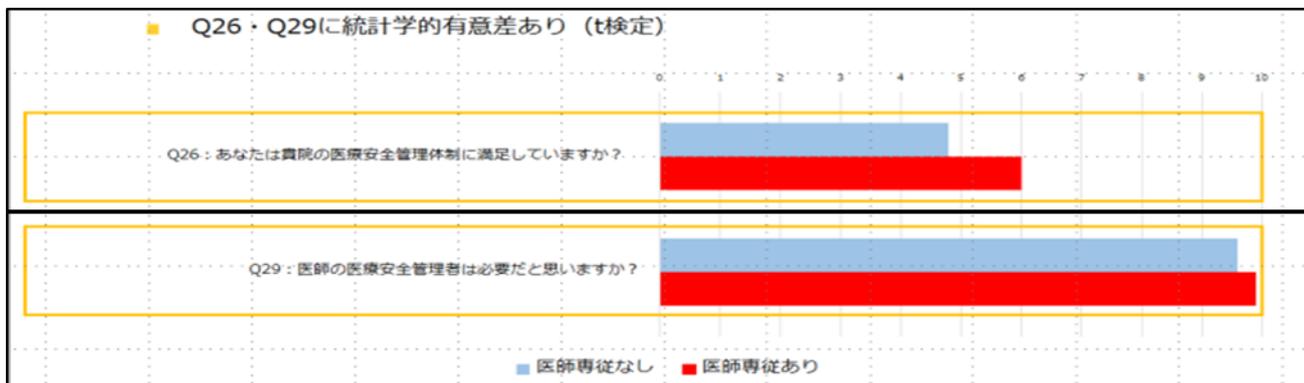
医療事故調査は、ほとんどされていない3件、まれにされている9件、ときどきされている35件、よくされている61件、不明1件であった。

<医療事故発生時に相談できる医師がいるか>

医療事故発生時に相談できるかについて、医師が常にいると回答した施設は 82 件、いることが多い 22 件、いないことが多い 4 件、不明が 1 件であった。

<医師専従の有無と回答結果>

安全管理体制への満足と医師専従の有無についてみると、「医師専従あり」群で、医療安全管理体制に満足しているものが多く、また、医師の医療安全管理者が必要だと思うものも多い傾向にあった。



D. 考察

本研究では、医師以外の医療安全管理者を対象に、Web で回答してもらうという方法で 1 次アンケートを行った。無効な回答は 2 件のみであり、調査の対象、方法は妥当であると考えられた。内容については、平時・有事の医療安全活動を前提とした調査項目を含むようにし、これらの活動が専従の医師の有無あるいは、その医師の積極性、病院の体制への満足度などどのような関係があるかを明らかにできる可能性も示唆された。

E. 結論

本研究においては、現時点でのわが国における医師の安全管理活動への関与の実態を把握するための 1 次アンケート調査を行った。その結果、本研究の基本方針に従って、より大規模な 2 次アンケート調査が実施可能であることが明らかになった。

以上